

高岡市総合計画審議会 第2回総括部会 議事要旨

- 1 日 時 令和3年3月30日(火) 18:00~20:00
- 2 場 所 ホテルニューオータニ高岡 3階 万葉の間
- 3 出席者 委員6名(うち代理1名)、参与2名
- 4 概 要 ・総合計画第4次基本計画素案について
・総合計画の策定スケジュールについて
※詳細については以下のとおり

5 総括部会の内容

(1) 開 会

(2) 市長挨拶

(3) 議 事

① 高岡市第4次基本計画素案について

事務局 資料 No. 1 意見交換会、資料 No. 2 市民アンケート調査結果 説明

部会長 ・アンケートは市民の人口構成に合わせてということになっている。回答には比較的中高年の意見が強いと思われる。次世代から共感を得られるようにという点と合わせて考えると結果内容の検討が必要かと思われる。

事務局 ・年齢階層別にみると、設問2のめざすまちの施策ごとの満足度について、交流や観光に不満を感じている割合が多いが、年代では50代以上の方が不満を感じている割合が多い。それと同様に設問3の力を入れていくべき点についても交流・観光が強いとなっている。

部会長 ・以前は高岡が金沢をリードするという時代があり、その世代にこうした回答が多いのではと思われる。世代ごとの特徴を把握し、次世代の意見を取り込んでいく。

事務局 資料 No. 3 素案について 説明

【各部会長からこれまでの3回の専門部会のまとめの発言：安全・安心部会は副部会長が代理】

委員 ・産業・文化・交流部会は、非常に範囲が広い部会である。歴史・文化、ものづくりといった高岡市の強みをまちづくりに活かしていくなどの協議を行った。

全体としてはデジタル化の視点を取り入れつつ、今後取り組んでいく視点をまとめたところである。まずは、市民が地域の良さをよく知ることが大事であり、シビックプライドにつながる。それがさらなる魅力の発見、移住・定住にもつながる。

地域産業においては、伝統産業の人材育成や産学官と連携した取り組みを行い、またものづくり産業の魅力発信などを行うことを計画にも記載した。

歴史・文化では伝統技術などの継承や担い手の育成、歴史・文化遺産の再発見、発信について意見をいただいた。

交流・観光については、新高岡駅と高岡駅の役割を明確にしていかななくてはならないという意見が多かった。まちなかの賑わいにむけた交流の場づくり、インバウンドに向けた取り組みにも意見があった。

まとめてみれば、県外へのPR不足やPR下手、市民が高岡を知らないことがあった。子どものころから高岡の良さを教えていく必要がある。そのためには大人が高岡の良さを知り、地域に愛着を持ってもらい高岡をPRしてもらうことが大事という意見があった。この点についてはひとつづくり部会の教育分野にもふるさと学習などの盛り込みはあるところ。

- 部会長**
- ・ひとつづくり部会では、保育サービスや放課後児童クラブ支援員、このあたりの充実を求める声があった。学校教育ではGIGAスクール構想が前倒しで進んできている。ただ教員が使いこなせるかという課題があるという意見があった。また、小中一貫教育が進んでいるが、跡地利用や地域特性を踏まえ、地域によって取り残されないようにという議論があった。産業・文化・交流部会でもあったが、地域に誇りと愛着を持つことの重要性や、大人になってもリカレント教育を進めるべきという意見があった。地域の力をどう高めていくかというところである。主権者教育をどう進めるかについての問題提起もあった。スポーツではオリンピック・パラリンピックだけでなく、健康スポーツや障がい者スポーツなどの多様な環境の実現を求める議論があった。

全体を通して印象的だったのはICTを活用すべきではないかという意見であった。アドバイザーからは単に手作業でやっていたことを置き換えるだけではDXにはならない、仕組みや構造を変えることが必要だという指摘があった。地域においては共創の視点でネットワークを組みながらひとつづくりを考えていく必要がある。部会ごとの縦割りの懸念もあるので、横串を刺すような形も必要。

- 委員**
- ・安全・安心部会では、人口減少・少子高齢化、ひとの力について意見があった。福祉介護の担い手不足、地域運営の人材減少の課題。その解決は具体まではいかなかったが、ひととひとのつながりを軸に検討をという意見があった。地域づくりについては、各地域で受け皿となる総合的で持続的な組織づくりが必要である。持続可能性を考えたときには、市民がやる気になって地域づくりをしていくという意識を醸成することが重要である。共創の意識の醸成が重要であるということ。

多文化共生の施策については、外国人の中には地震を経験したことがない人もいて災害意識が低い、これをどう醸成していくか。また外国人と地域住民のかかわりをどうしていくかという意見があった。デジタル化に関してはこの部会だけに関わるものではなく、計画全体に盛り込まれている。高度情報化の推進は目的ではなくて手段であり、誰も置き去りにしないデジタル化の推進が求められる。

福祉では、核家族が進んでいることや、活動の担い手が減少している。ボランティアを始めるきっかけづくりにも様々な意見をいただいている。募集ではなくどうしたらやってもらえるかの意識づけが必要である。

防災については、新型コロナを見据えた検証、マニュアルをとという意見があった。女性防災士が重要な役割を果たしているという声もあった。また、今冬を踏まえ雪の対策も考えていかななくてはならない。これまで総合計画では除排雪を中心に考えていたが、これからは積雪状況はどうかということや、除排雪の今の状況はどうかなど、雪の状態を理解できる仕組みづくりを考えていかななくてはならない。デジタル化も使えるはずである。安全・安心部会は、暮らしていく中で当たり前と思っていたところをどう維持していくかに注目した意見が出た。当たり前を維持することが簡単ではなくなっている。

部会長 ・デジタル化、共創、シビックプライド、このあたりが3部会の共通事項になろうかと思う。説明を受けて、地域の視点で見ているかがか。

委員 ・自治会の役員は10年前までは60歳の定年退職後に行うものだった。最近は70歳まで働く人がいるので、70歳になってから役員をやろうかという人がいる。元気ならいいが高齢でやってもらえない自治会もあるため、役員構成ができなくなる。高齢化が進むと地域をまとめにくくなる。イベントについては、意見は出るがなかなか実行できないという状況。女性防災士については宣伝が行き届いていない。自治会活動について、市役所からは様々依頼されるが、70歳以下の人は仕事をしており、70歳以上は体力的に限界がある。行政がある程度指導、協力をしていかないと自治会活動が成り立たない。そもそも自治会になぜ入らないといけないのかという人もいる。

部会長 ・切実な現実である。かつては連合婦人会という組織もあったが、そのあたりの視点からはどうか。

委員 ・地域女性ネット高岡という名前になっているが、地域とのつながりをという思いから連合婦人会から名前を変えたもの。最近は高齢で抜けていく人が多くなってきて、入る人は少ない。ボランティア活動を維持していくのが難しい。女性防災士を7名案内してもらい、地域とのつながりを持つことができた。

市民が高岡を知らないことについて、若い人は確かに関心がない。高岡には素晴らしい観光資源がある。平成の大修理を終える勝興寺も素晴らしく、地域女性ネットではその素晴らしさを聞く機会があるが、なかなか市民には伝わっていない。そうしたものをSNSで発信してもらい高岡の魅力を伝える企画をしてほしい。高岡の人が高岡の魅力を知る機会を。

部会長 ・いわゆる伝統的な地縁組織の運営が難しくなっている。

委員 ・60歳で定年してきた人がこれまで担ってきた地域での役割を担う人がいない。これに

は働いている人たちの意識が変わらないといけない。地域の人たちとともに社会を作っていくという共創の意識があれば社会は多少変わっていくのでは。

- 部会長**
- ・再発見、発信などまず知ることからではないかということ。
- 委員**
- ・一番大事なのは小学生・幼稚園などの子どもたち。昔は近所の人にいろいろなことを教わったものだが、今はそうした機会が少ない。ふるさと教育が非常に重要だと考えている。今はものづくりデザイン科を受けた生徒が能作に就職したいとやってくるようになったが、10数年かけてこの状態であり、市を、市民を変えることには時間がかかる。子どもたちの登下校を見守っている定年を過ぎた高齢者を見かける。そうした人たちが子どもに教えるというのは良い循環になると思うし、高齢者の生活に張り合いが出ることにもなる。これからは自分がよければいいという時代ではない。共創の精神やお互いに思い合うことが大事。自分は実践しており、能作では能作の商品しか置かない。他社の商品を置けば売れるのはわかっているが、産業観光の視点からは一か所に人が来て終わりではなく、来た人に高岡を巡ってほしいから置かない。そうした施策に取り組んでいけばよい。
- 部会長**
- ・戸出地区でも戸出の歴史を知る会などがあつたかと思うが、生涯学習、ふるさと教育が大事。
- 委員**
- ・地域の歴史・文化を子どもに教えると、両親や祖父母などに話すことで、家族みんなが地域について知り、誇りを持つことになる。また地域の交流にもつながる。
- 部会長**
- ・地名の由来等から入るやり方もある。なぜその地名になったのかといった話から、地域への愛着と誇りが生まれていくということもある。世代の循環型教育が、地域の力を高めることにつながる。
- 委員**
- ・コロナの状況が5年、10年も続くのかということそうではない。ただ、元に戻るわけではなく、今までと違った世界になる。では今までの既成概念や既得概念をどうするか。昨日も県の会議に出席していたが、アンケートや話し合いをしていくと、これをしてほしい、あれをしてほしいという話がどんどん出てくる。これらすべてに対応していけば行政の資源は分散化していくことになる。そうすると、何かをやめる必要が出てくる。やめることを選択することが大事。すべての人が賛成してやめるということではできず、タイミングを図り勇気を持ってやめることが大切だと思う。高岡が発展していくには弱点の修復ではもたない、高岡の持つ強みに資源を集中していくことが大事。また強さを伸ばしていくには弱みを知る必要がある。市民は高岡の弱みを果たしてわかっているのか。弱みを認識しておく必要がある。
 - ・ひとにフォーカスをするのは良い。シビックプライドが弱いという話が出ていたが、これが高岡の弱みであるといえる。シビックプライドをどうやって高めていくのかは、リーダーとしてのロールモデルが必要。民間から出てきたオピニオンリーダーを

大事にして、市民の視線がそちらを向いて共感を得るような、そんな構造を意識的に作り上げるようにしていくことが必要ではないか。

参与 ・人口の見通し、実態は厳しいだろう。アンケート調査の報告書で、現住所に住んだ理由で進学を選ぶ人の割合が増えていることを、移住・定住施策によるものとしているが、本質的には県外に出た人たちがなかなか戻ってこないという事情もあるだろうと思われる。首都圏に出て行った人たちがどうすれば戻ってくるのか、スピード感を持ちピンチをチャンスに変えていくこと。計画は計画として当然やっていくものであるが、コロナワクチン効果が出る前に取り組んでいくべきことだろう。コロナ前の世の中の状況には戻らないという話もあった。ひとに視点をあてたことは当然のことであろうかと思っている。市と足並みをそろえてやっていきたい。

参与 ・市民が高岡を知らないという話があったが、知っているだけという人も多く、広められないという人もいる。町内行事に参加する人も減っている。町内には各地で祭りがあり、良いコミュニティだと思っている。自分は活動しているが、それは親世代が自分たちを楽しませようとしてくれていたことを子世代にもつなげたいと思ったためである。ただ下の世代は入ってこない。若手をなるべく地域に関わらせることが必要と考える。私が小学校の時は、地域活動があれば学校もそちらを優先させてもらえた。今は地元の行事よりもスポーツ活動が優先されたりする。地域の活動に関わらせていくという意識づくりが大事。

・交流・観光で思っていたこととして、高岡には観光資源がある。都会からやってくる人は乗り換えや徒歩、自転車など問題ないという人もいる。その人たちのための動線などをはっきりわかりやすく伝えることが大事なこと。いいまち高岡を作っていくことで進めていけたらと思う。

部会長 ・土地利用に関して、今の動線の話があった。都心にある5つのエリアの動線をどうするのかということも重要である。

委員 ・高岡駅と新高岡駅の役割がよくわからないという意見があった、どちらかを切り捨てるというものではないかとは思いますが、両方を立たせるというのはなかなか難しい。LRTの一本化、南北接続などもある。城端線は1時間に1本であり、市外から来た人に交通の不便さを感じさせてしまうこともある。実際はバスなどの交通手段ももちろんあるのだろうが。

部会長 ・駅南ゾーンがカギになるのではと考えられる。市内には資源が分散しており、高岡駅と新高岡駅をどうつなぐか、また北部地域では勝興寺や万葉歴史館をどうつなぐかという問題もある。

委員 ・優先順位を決めるには、緊急性、効果性、実現可能性がある。高岡駅と新高岡駅のど

ちらかを切り捨てるという議論は実現可能性が低い。そのほかにやめることができることはある。

- 部会長** ・ そうした点でも再発見は必要。
- 委員** ・ 合計特殊出生率をどこまであげるかという話がある。1.9は県民希望出生率、2.07は人口置換水準であるが、メッセージ性がややある数字である。たとえば女性が高学歴化していくと、婚姻期間が短くなる。子どもの数は婚姻期間の長さが反映されることになるため、女性の社会参加を進めていくことと逆のメッセージを出していくということにもなる。女性の高学歴がどうかとなってしまふ。人口置換水準を毎回記載しているのはどうかと思う。私の大学の講義では、かつては婚姻するのが早かったため子どもが多かったと説明している。数字は否定しないが、メッセージは違った形がよいのではと思う。ニュートラルな説明だと説明しづらい。人口が減ることに対して数字を出しているのだろうが、見る人が見るとこれはどうなの、と違和感を覚える人はいる。
- 部会長** ・ これは議論した覚えがある。2.07という人口置換水準を目標とすることはひとつの覚悟だと聞いている。保育サービスの充実はずっとやってきているが、基本は産業政策ではないかと考える。
- 委員** ・ 人口学的に見ると、産業が高度化すればするほど少子化は進むため、社会が前に発展する限りはこれは仕方がない。どこまでを良しとするのかということ。
- 委員** ・ 女性の社会進出を見ると、日本は非常に低い。スウェーデンでは女性の社会進出が進んでいるのに合計特殊出生率も高い。女性の社会進出と合計特殊出生率に関係性があるとは必ずしも言えないのではないか。男性の育児に対する参画などをもっと行っていくべきではないかと思っている。
- 部会長** ・ 非正規雇用からは将来結婚できないだろうという意識が蔓延している。
- 委員** ・ アフターコロナでは分断と格差はこれまでよりも広がり、収入が少ない世帯が増えることも考えられる。
- 市長** ・ 日本の税制は家系中心から個人中心に切り替わっている。女性の雇用や女性の出産などにどう絡んでいるかなどは不透明であるが、社会全体の構造に対する日本のメッセージをどうしていくかが課題でもある。本来、生む生まないは両性の合意によるもの。合計特殊出生率に一定の数字を設定することにどういう意味があるのか、高岡市だけではないが、国民によるコンセンサスがあることを期待する。
市としては子どもを生み育てやすい環境づくりが大事であると考えている。
- 部会長** ・ 本日の議論については、事務局と調整して可能な範囲で計画への反映を検討し、今後

の総会でご審議いただくこととしたい。

② 総合計画の策定スケジュールについて 資料 No. 4

部会長 ・パブリックコメントではぜひ次世代からの意見がほしいなというところ。市民が共創の意識を持つ。そうした計画になることを願っている。

市長 ・大変難しい課題もいただいた。これを踏まえて総会に出す案をまた練っていく。アンケートの中での年代分析の話があったが、行っていきたい。また、アンケートの中身では、取り組むべき項目でどちらともいえないというのが多かった。これは施策イメージがはっきりしていないことの表れや、市民がこの変革の時代でどう変わっていくか悩んでいるのではないかと感じた。今後整理をしていきたい。

・高岡の強みに資源を集中していくことには賛成である。地域の持っている可能性に対して努力をしてきた。シビックプライドを高めていくことはこれからもしていかなくてはならない。

・コロナの影響をどう理解するか、非接触化やキャッシュレスなど加速したと思っている。

・デジタル化とともに次世代の共感を得るとも言っている。次世代の共感を得るというのはある意味アナログであり、地域の意識の醸成もアナログである。これらとデジタル化をどう共存させていくかも課題。完全な答えを出すことは難しいが、みなさんの力を借りて、計画を作っていくこととしたい。

(4) 閉 会

以上